

徳川みらい学会 設立趣意書

世界史上に例をみない265年にも及ぶ平和の礎を築いた徳川家康公が薨去されてから、まもなく400年を迎えます。

これまで、ともすれば封建社会として否定的に捉えられがちであった「徳川時代」ですが、実は多くの驚くべき知恵によって成立していた社会であり、近年あらゆる面からの再評価が進んでいます。

「徳川時代」の我が国では、人々は国内の限りある資源だけで生活し、あらゆるものをリサイクルするという究極の循環型社会システムが構築されていました。また、対外的には経済・文化交流を基軸とした平和外交政策、国内では戦国時代の終焉とともに軍縮政策が進められました。その結果、長い平和の時代がもたらされ、高度で洗練された江戸文化発展の基盤となりました。

一方、現代に目を転じますと、世界は環境問題・経済問題・社会問題が深刻さを増しており、持続可能な社会の構築が喫緊の課題となっています。また、依然として世界各地で領土問題や地域紛争が頻発し、多くの人々が厳しい状況下に置かれています。

私たちは、こうした困難な局面において人類の道標となるのが「徳川時代」の知恵ではないかと考えます。

私たちは、この「徳川時代」を改めて研究し、その知恵や歴史的意義を未来の日本、そして世界へと発信するため、ここに「徳川みらい学会」を設立いたします。

平成25年 春